



授業のながれ（小学校）



目標

作品に宛てたお手紙を書くことを通し、作品に描かれた人や物などの特徴をとらえ、描かれた作品について考える力を育む。

活動

作品群からお気に入りの作品をひとつ選び、扱う人・物のいろいろな特徴や事象を、作品の世界に入り込んだ視点でよく見る。鑑賞したことから、自分が感じたこと、気づいたことを作品に宛てた手紙として書く。手紙の内容をペアやグループで話し合い、他の人の見方や感じ方の違いに気づく。

1. クラス全体に作品と（先生が書いた）お手紙を例示し、「ここから何を感じた」「こんなことを想像した」「ここを面白いと思った」などお手紙を書いた理由を紹介する。
2. 手紙を出したい作品を選び、よく見る。
3. 作品を見て感じたこと、気になったことをワークシートに書く。
4. ワークシートの内容をもとに手紙を書く。
5. 活動を終えて、おもしろかったことをクラスの中で発表し合う。

指導の留意点

- 学びを深めるため、4人程度のグループで、お互いの活動が見えるように座り、必要があればすぐに友達と対話できるようにすることが望ましい。
- クラスの実態によっては、①グループで1つの作品に取り組むがそれぞれで手紙を書く②グループで1つの作品に取り組み、1つの手紙を書く、なども考えられる。
- 個々の子どもの見方、感じ方の価値を肯定的に認め、発言や思い付きのよさを共感的に受け止めるよう努める。
- 児童には、グループで対話をする際に、どこからそう思ったか理由を述べるように声を掛ける。
- 作品に登場する人物や物（擬人化）に対して、手紙を書くように促す。作者やモチーフになったものに宛てた手紙にならないようにする。
- 手紙に書く内容について、人を傷つけたり、誹謗中傷したりする言葉を使わないよう指導する。
- 手紙の宛先や差出人の名前は子どもの自由な発想で、ペンネームなどで書いてよいと伝える。